

# 「教科書プラスワン」の授業づくりとは

あらし げん しゅう  
嵐 元 秀

## 社会科の授業づくりは難しい

「社会科の授業は、どうすればうまくいくんですか」。若手の先生方からよく聞く言葉です。

誰もが子どもたちの表情が輝く授業をしたいものです。けれども、なかなか思うようにはいきません。

先輩に相談すると、「よい授業をたくさん見るといいよ」とアドバイスを受けます。研究授業を見に行くと、見たことのないようなすごい資料を使って、授業を進めている。教科書はほとんど使っていない。子どもも活発に発言している。板書も素晴らしい。

「こんなすごい授業は今の自分にはできない。何から変えていけばいいのだろう。」と途方に暮れてしまった。そんな経験をしたことのある方もいるでしょう。

当然です。研究授業は、何人もの教師が知恵を出し合いながら、何回も話し合っつてつくっていくことが多いものです。さまざまな資料の中から吟味したものが選ばれ、発問や指示も練られていきます。

それに比べて、日々の授業は、自分一人で教材研究をし、短い時間で授業の準備をすることがほとんどです。すぐに同じレベルの授業ができるわけがないのです。

「社会科は、教科書を教えるのではなく、教科書で教えるものだ」という言葉も、よく聞きます。けれども、これがなかなか難しい。

しっかりと教材研究をして、子どもの実態に合わせて指導計画を立ててから授業に臨まないと、「教科書で教える」授業にはなりません。

子どもたちがのってくる授業を、短い準備時間で日常的に行えるようにすることはできないものでしょうか。

## 「教科書プラスワン」でつくる問題解決型の学習

子どもがのってくるのは、問題解決的な学習スタイルです。教科書は基本的に、「つかむ」「調べる」「まとめる」という問題解決的な展開になるようにつくられています。

けれども、問題解決型の授業には難点もあります。一つは、時間がかかるということです。子どもの問題意識をもとに、子どものペースに合わせて追究活動をしていったら、指導計画通りにはなかなか進みません。

もう一つの問題点は、学習問題が子どもの調べたいこと・考えたいことになっていない場合が多いことです。教科書通りに進めていくと、子どもから見ると、与えられた学習問題で形式的な問題解決を行っているように感じられる場合があります。

そこでおすすめしたいのが、「教科書プラスワン」の考え方で授業をつくることです。

授業の展開は教科書を基本としつつ、子どもがわくわくするような工夫を加えてみるのです。それだけでも、子どもの学習意欲は高まってきます。やらされている問題解決学習から、自ら進んで調べ考え表現する問題解決学習に変わっていきます。

## 「教科書プラスワン」のポイント

では、授業のどこに、何を『プラスワン』すればいいのでしょうか。

最も大切なプラスワンポイント、それは、単元の導入、「つかむ」段階です。

教科書を開いてみて、この導入では子どもが乗ってこないだろうなと感じたら、何か手立てを考えてみましょう。

例えば、子どもが驚くような資料を探してみる。興味をもつような体験的な活動を入れてみる。自分との関わりを感じられるよう、子どもたち全員が発言できるような発問を考えてみる。身近に感じられるように、その単元に関係のある実物を子どもたちに見せたり、時事問題を取り上げたりする。

さまざまな方法があります。「つかむ」段階で、学習内容に対する興味を子どもたちにもたせることができれば、授業は半分成功したようなものです。

余裕があれば、その次の「調べる」段階や「まとめる」段階でもプラスワンを考えてみましょう。

例えば、調べる段階で教科書や資料集以外の資料を使って、知的好奇心を広げていく。調べる段階でも体験的活動を取り入れて、学習内容を実感させる。調べただけで終わりにせず、考えを深めるような発問を工夫してみる。子どもの表現意欲をかき立てるような表現活動を取り入れてみる。

子ども目線で学習内容や学習活動を考えていくことがポイントです。

社会科の授業づくりは確かに簡単ではありません。けれども、社会科の授業づくりは楽しい。私は、そう感じながら授業をつくってきました。子どもたちの瞳が輝く授業をできたときの自信と爽快感は忘れられません。

この連載では、教科書プラスワンの考え方で授業を行った例を紹介していきます。これはいいなと思ったアイデアがあれば、授業づくりに生かしてみてください。そのまま取り入れてもいいですし、自分なりにアレンジしてもいいでしょう。

失敗を恐れず、教師も楽しみながら授業をつくっていきましょう。

(2015年9月)

あらし げんしゅう  
嵐 元秀

東京都の公立小学校教師。教師歴 27 年。

楽しみながら、調べ・考え・表現する力が高まっていく  
社会科授業を旨として研究・実践をしている。